

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099400048		
法人名	社会福祉法人 豊徳会		
事業所名	グループホームあかいけ		
所在地	福岡県田川郡福智町赤池409-13		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果確定日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成29年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年4月に1ユニット、10月に2ユニット目開設。18名のご利用者様をお迎えして1年目となる新しいグループホームです。入居された皆様が不安を感じることはないよう、安心して日々を過ごしていただけるよう職員一同、研鑽に励み、支援させていただいています。1年目で地域に充分認知していただけないこともあるので、ご家族や知人、友人などいつでも来所していただき地域に開かれたグループホームになることをめざしていきます。また、ボランティアの方々に来所いただき日々の活動の幅を広げたり、地域活動への参加も今後はおこなっていきたく考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の「共に生きる」を取り入れ、「優しい声かけ笑顔で傾聴、地域の中で生き生きと暮らす、思いやりの心で共に生きる」とのホーム理念を、職員たちが話し合いを重ねて創り上げている。職員を担当制にして思いや意向の把握に努め、全職員で情報を共有した支援が実践され、入居当初は家族と度々外出されていた入居者がホームの生活に馴染み、外出が少なくなったり、自宅でもほとんど動くことのなかった入居者が、歩行器で動けるようになっていく。地元からの入居者が多く、家族や知人などの訪れが頻繁で、盆踊りの参加や近隣の児童施設の子どもたちとの交流を楽しみ、ボランティアの方に絵の指導を受けている。運営推進会議では感染予防やホームでの介助方法について質問が挙がるなど、ホームへの関心も高く、地域に密着しながら、生き生きと暮らせるホームづくりに邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **ユニット1／グループホームあかいけ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「共に生きる」をとり入れたグループホームの理念を作り、地域の一員として地域の中でいきいきと生活できる事業所でありたいと考えている。理念を掲示し朝礼で職員で唱和し理念を共有し実践につなげている。	開所前から職員間で話し合いを重ね、「優しい声かけ笑顔で傾聴、地域の中で生き生きと暮らす、思いやりの心で共に生きる」との理念を創りあげている。毎朝理念を唱和し、業務始めの心構えとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りに参加させていただいたり、ボランティアの方に絵の指導を受けている他、紙芝居やレクリエーションなどの提供をいただいている。	地元からの入居者が多いこともあり、友人、知人の訪れが多く、前区長がそのまま運営推進委員を継続し、入居者家族からボランティアの紹介を受けている。近くにある法人の児童施設の子供たちと七夕やクリスマスに交流し、入居者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談などに対応できるよう地域の一員として活動を続けていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や家族の代表の方、また行政の方等に参加いただき2ヶ月に一度開催している。利用者様の活動状況、行事、事業報告等をおこない、また意見等をいただきサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議規則に守秘義務を明記し、家族代表の2名と行政職員、区長や近隣の住職など適切なメンバーで定期的開催され、議事録を整備している。感染予防やホームでの介助方法について質問が挙がるなど、参加者の関心度が高い会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加いただくと共に日常より困りごとや質問など、電話や窓口にて相談をおこなっている。また介護ロボットの導入の際は度々来所していただくなど連携を取り事業を進めている。	介護ロボットの導入や地域との協力体制、認知症カフェの開設などにアドバイスや指導を受けている。地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員がホームの見学に訪れるなど、連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを日々職員に伝えると共に職員会議で確認していく。	開所1年目で帰宅願望や落ち着かない入居者の安全のため玄関の施錠は行っているが、施設内は自由でセンサーも使用していない。介護ロボットによる心疾患のある入居者の夜間の見守りが行われている。職員たちは言葉による拘束も理解し、研修を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について月1回の職員会議で確認をおこない、虐待が常に見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、市町村の担当者や相談したり、会議等で勉強会をおこなっている。	入居者のキーパーソンが逝去され、関係部署に成年後見制度の活用について相談をしている。費用がかかることや担当者からの説明を受け、親族がキーパーソンを引き継ぐことになり、現在経過をみている。	今後さらに家族関係の多様性が考えられることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットの整備や入居時に説明をお願いします。また、制度や事業に関する研修も期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な説明をおこないご理解いただいた上で締結をおこなっている。疑問点などがあればいつでも対応できる環境づくりをおこなっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方々やご家族が、意見や要望を伝えられるような雰囲気や環境づくりをおこない、また丁寧な傾聴を心掛けている。	全家族が月1回以上は来訪されるが、週1回訪れる家族もあり、意見や要望を伺っている。家族と度々外出されていた入居者がホームの生活に馴染み、外出が少なくなってほっとしているなどと家族から気軽に意見が出されている。また、法人機関紙にホームの記事が写真入で掲載され家族に喜ばれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や年2回の個別面談等で職員の意見等を聞き、業務や環境づくり、サービスの向上等に反映させている。	月1回、職員が集まりやすい時間に職員会議を設定し、管理者から必要な備品や物品はないかと尋ねるなど、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。早急に対応が必要な入居者のことや物品については、ユニット毎の話し合いが行われ、随時対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で人事考課制度を採用しており、個々の職員の目標や実績に応じた評価をおこなっている。就業規則あり。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の勤務に関しては希望の勤務形態を協議し、本人の意向に沿った働き方ができるよう提案している。	開所時母体法人から職員数名が異動し、ハローワークや口コミで介護福祉士やヘルパー資格を持った職員が年齢や性差に関わらず採用され、現在30歳代～60歳代の職員が就労している。職員の休憩室も完備され、昼休みを交代で取り、希望休が叶えられ、半年の就業で年次有休も取得している。半年に1回職場の見直しシートが配られ、管理者と面談している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様の人権を尊重するため、毎月の職員会議で人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法人理念の「共に生きる」をホームの理念でも謳い、会議や職場研修など、ことあるごとに虐待防止や人権教育を行っている。県や町の研修の情報を提供し、参加者が伝達講習をしている。	年間研修計画を立案され、必要な研修の習得を業務に生かされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルに応じた研修に参加できる機会を設けたり、外部研修の情報を広く提供し、意欲的に参加できる環境を作っている。研修会等の資料は回覧し、全職員が情報を得られるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム協議会に参加しネットワークづくりや相互訪問などの情報交換等積極的におこない、サービスの質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居いただく前からご本人の状況を把握し、安心して生活できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居いただく前からご家族様とも十分に話し合いをおこない、困りごとや不安、要望などが少しずつ解消できるよう関係づくりをおこなっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談いただいたときにご本人様の状況の確認や「今、何が必要か」を充分協議し本人様に合ったサービスの提案をおこなうとともに他のサービス利用も合わせて伝えている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に自分の家という意識を持っておられる方がおられ、掃除機がけや洗濯物たたみなど自身でできることはおこなっていただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪や連絡等が唯一の絆であることから、常に来訪や確認の声かけをおこない、またご本人の状況などこまめに連絡をおこない関係の強化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族、友人、知人などにも来ていただけるような環境づくりに努めている。	地元からの入居者が多いこともあり友人、知人の訪れが多い。家族の訪れや家族とともに外出される機会も多く、家族の同行で馴染みの美容室に行く入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様がお互いを思いやり(声かけ、掃除、洗濯物たたみ、車椅子を押す)支え合うことが度々あり、スタッフではこの関係性を大切にしながら支援をおこなっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご家族様等への連絡や状況確認などおこない、相談など支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向に耳を傾け、希望に沿うことができるよう努めている。言葉で思いを伝えられない方にはご家族と話をしたり、職員間で協議したりして気持ちを汲み取るよう努めている。	早くホームに慣れてもらうために、職員を担当制にして思いや意向の把握に努め、全職員で情報を共有しながらさらなる意向の把握に努めている。囲基の好きな入居者に職員が相手をしたり、本好きの入居者に本を提供するなど思いの支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生き方や暮らし方など少しずつ生活や会話の中でひもとかれていられることがある。ご本人様の尊厳を大切にしながらサービスの提供につなげていくことを考慮している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細なことでも職員で情報を共有し、一人ひとりの支援に反映できるよう把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様が他者と一緒に生活するという現実をどのように支援していくかという目的をまず持ち、利用者様の立場に立った課題を共有することで介護計画を作成している。	本人や家族の意向に基づき介護計画が立てられ、いつでも確認できるようスタッフルームに介護計画を設置している。月1回の職員会議で、担当者によるモニタリング結果を話し合い、見直しや修正が行われている。自宅でもとんど動くことになかった入居者が歩行器で動けるようになり家族からも喜ばれている。	介護支援経過記録の見直しで、業務の整理をされ、個別性のある支援の展開を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録として利用者様の日々の様子や状況等を記載し、職員間で情報の共有をおこなっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族からの意見、要望に応えられるよう行政や医療機関、他事業所などの意見やアドバイスを聞きながら支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつ地域の活動に参加させていただき、関係の構築をおこなっている。本人に必要なサービスも関係機関や行政に確認しながら利用できるよう情報収集などをおこなっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望された方に関しては、家族等と連携を図りながら受診していただく。協力医療機関とも密に連絡を取るとともに週1回の往診もおこなっていただいている。かかりつけ医との連携もおこない、往診で対応いただくなど複数の医療機関との関係構築もおこなっている。	協力医療機関のかかりつけ医による定期的な往診が行われたり、それ以外のかかりつけ医には家族が同行して受診したり、往診を受けたりしている。膀胱留置カテーテル挿入中の入居者も訪問診療を受け、日頃から健康チェックを行い、異常の気づきに勤めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、利用者様の状況確認等適切な受診や看護が受けられるような体制をとっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはグループホームでの生活状況を説明し、退院時には看護サマリーをいただくなど、関係医療機関と連携をとっている。また、定期的に面会に行くことで、現状の把握や情報交換に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針を掲げていないので、早期に事業の方針を協議し、ご本人、ご家族に説明できるような体制を整えていく。	協力医療機関との話し合いや、入居者のかかりつけ医とのかかわりで看取りの方針を検討中である。心疾患の入居者もあり、緊急時の対応の研修も進めながら、職員間でも看取りに関する対応を継続して検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員による講習を定期的におこない、急変や事故発生時に対応できるようにしていく。平成28年11月、AEDの設置。事故発生時の緊急マニュアルを作成している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回計画し利用者様の安全確保に努めている。消火器の使い方や誘導の方法など全職員で実践し確認している。災害時の備蓄の準備も進めている。緊急連絡網の整備。	今月、消防設備の業者による取り扱いの研修も兼ねて、2回目の避難訓練を予定している。消防署で研修を受けた応急手当普及員が職場研修も行っている。備蓄や前回の訓練時避難通路の砂利道が危ないとの意見も新年度予算で対応されることとなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを人生の先輩として敬い、言葉遣いや態度にも常に心配りをおこなっている。プライバシーの確保のための環境づくりや守秘義務の厳守など職員間で十分理解し支援につなげている。	以前デイサービスで異性と同席になるのを嫌がっていた入居者も、職員の配慮で自然に慣れて、ソファや食卓椅子で過ごせるようになっている。調査時、職員が入居者に一人ずつ声かけをしながら居室に案内した。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いを伝えやすい環境づくりをおこなうと共に、傾聴の姿勢を職員全員が常におこなうよう理念に掲げ実践へと繋げている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせて支援させていただけるよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には利用者様に毎日の服を選んで着ていただいている。ご自身で選ぶことが難しい方には職員が訪室し一緒に考え選んで着ていただいている。出張散髪として月1回、美容師に来ていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士による季節感あふれる献立作成をおこなっている。また、野菜の下処理や片付け、下膳、テーブル拭きなど、職員と一緒にできることをお願いしている。	脱水で毎日点滴をしていたという入居者は普通食を少しずつ食べることで食事や水分が摂れるようになっている。また、車椅子から食卓の椅子に移乗してゆっくり食事を摂ったり、自助具を使ってとろみ食を入居者のペースで食べられるように対応するなど、食事を楽しめる工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量の記録、または週1回の体重測定などで利用者様の状態把握をおこなっている。身体状況や嚥下の状況に合わせて粥食や刻み食等を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや見守りをおこない、できない方は介助にて口腔ケアをおこなっている。必要に応じて訪問歯科往診もおこなっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつの習慣やパターンを確認し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	日中は全員がトイレで排泄している。トイレ誘導の必要な入居者もあるが、リハビリパンツや尿取りパットの使用も支援している。転倒リスクに配慮しながら、希望に沿って夜間もポータブルトイレでの排泄を支援している入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、排泄の確認、記録をおこない、便のない状態が続く場合は看護師、医師と連携し排便調節をおこなえる体制をつくっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴いただくように声掛けしているが、利用者様の意向で「今日は入らない」と言われる方がおられるので無理強いせず、思いを汲んでいる。また入浴の順番で立腹された方がおられるため、利用者様全員で入浴の順番を決めていただくなど、利用者様本位の支援をおこなっている。	普通の入浴ができる浴槽と機械浴があり、入居者の状態に応じて使用している。現在2名の方が機械浴であるが、職員2名で安全に配慮しながら対応している。ひとりで入りたい方もあり、浴室の外で見守りながら個々の思いに寄り添っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に合わせて休息できるよう配慮している。夜間も安心して気持ちよく眠れるよう環境を整えている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の処方や目的、用量などは看護師が医療機関と連携し、確認後職員が情報を共有し、服薬支援へと繋げている。服薬に関するマニュアルを作成している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつ作りが得意な方、花壇の手入れが得意な方、囲碁が趣味の方などそれぞれの楽しみごとを取り入れながら、気分転換等の支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は地域を散歩したりウッドデッキで日光浴をおこなっている。また、年間行事の中にも外出活動を取り入れ、気分転換や楽しみ作りを図っている。	この1年はホーム内や、ホーム前の道路工事で半年間散歩もできない時期があったが、菖蒲や紫陽花、向日葵見物をしている。家族と外出される入居者もあり、日常的な外出支援に取り組んでいきたいと管理者は話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金をお持ちの方や、困難な為、ご家族の依頼の元、職員で管理している方もおられる。ご本人のできることは自身でおこなっていただき、できない方は確認、声掛けなどで支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との電話連絡などいつでもおこなえるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂は吹き抜けになっており、十分に彩光が取り入れられるよう明るい造りになっている。また季節の花をテーブルに配したり、食事中はやさしい音楽を流すなど居心地よく過ごせるよう努めている。	玄関を入ると緋毛氈にお雛様の段飾りが目に入り、季節感のある設えであった。明るい色の木をふんだんに使い、リビングや食堂の吹き抜けにも同じ色の木の梁が組まれ、木の香りが漂っている。両側の居室の間にトイレや少しくぼんだ位置に十分な数の洗面台が、通路の邪魔にならないよう配置され、空調にも配慮されている。大型テレビの前のソファは入居者の寛ぎの場所となっていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを配置し、仲の良い入居者同士で会話を楽しんだりテレビを見てくつろげる場所として配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様が居心地よく過ごせるよう環境を整えている。使い慣れた物、なじみの物等持ってきていただくよう家族様とも連携をとっている。	居室の引戸にそれぞれの素敵な花の絵が掛けられ、居室間違いを防いでいるが、それでも間違える方の部屋には大きな名札が掛けられていた。居室ごとに大きなクローゼットと押入があり、馴染みの筆筒、机が持ち込まれ、立派な背もたれ付きの椅子、運動器具のある居室もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に暮らせるような物の配置を工夫し、できるだけ自立した生活が送れるよう支援していく。		